

2023年3月期 第2四半期決算説明会

株式会社 **アイチ** コーポレーション

2022年11月8日（火）



- I. 会社概要
- II. 22年度第2四半期の業績
- III. 22年度の業績見通し
- IV. 配当
- V. 中期経営計画

1. 企業理念

私たちは、新しい変化を創造することで
社会の発展につくします。

2. 当社の使命

私たちアイチコーポレーションは、
作業環境創造企業として、社会インフラ整備に携わるお客
さまに対し、作業の安全効率化、快適作業、環境対応、
災害復旧等、様々なお客さま経営課題の解決に主体的に
取り組み、お客さまにとって無くてはならない商品・サービスを
提供することにより、力強く社会に貢献します。

【創立】	1962年2月2日（2022年2月に創立60周年を迎えました）
【代表者】	代表取締役社長 山岸 俊哉
【本社】	埼玉県上尾市大字領家字山下1152番地の10
【支店】	6支店（宮城県、埼玉県、愛知県、大阪府、広島県、福岡県）
【サービス拠点】	国内222拠点（直営15拠点、指定協力工場207拠点）
【工場】	4工場（国内2工場、海外2工場）
【事業内容】	電力・電気・電話・通信工事用機械化車両、及び 建設・荷役・造船・鉄道用等工事用機械化車両の製造・販売
【資本金】	10,425百万円
【株式】	発行済 76百万株、株主数 8,303人（2022年9月末）
【大株主】	株式会社豊田自動織機（53.9%）
【従業員数】	連結 1,098人 単独 1,002人（2022年9月末）
【関係会社】	子会社3社、関連会社1社

- I. 会社概要
- II. 22年度第2四半期の業績
- III. 22年度の業績見通し
- IV. 配当
- V. 中期経営計画

22年度第2四半期のポイント

1. 原材料価格などの上昇を売価への反映で吸収するには至らず、シャシ供給の混乱などもあり、増収・減益

2. 通期の業績予想について、特装車の受注状況、原材料価格の状況などを踏まえ、年初予想を据え置き

3. 中間配当金17円、通期で34円配当の年初予想を据え置き

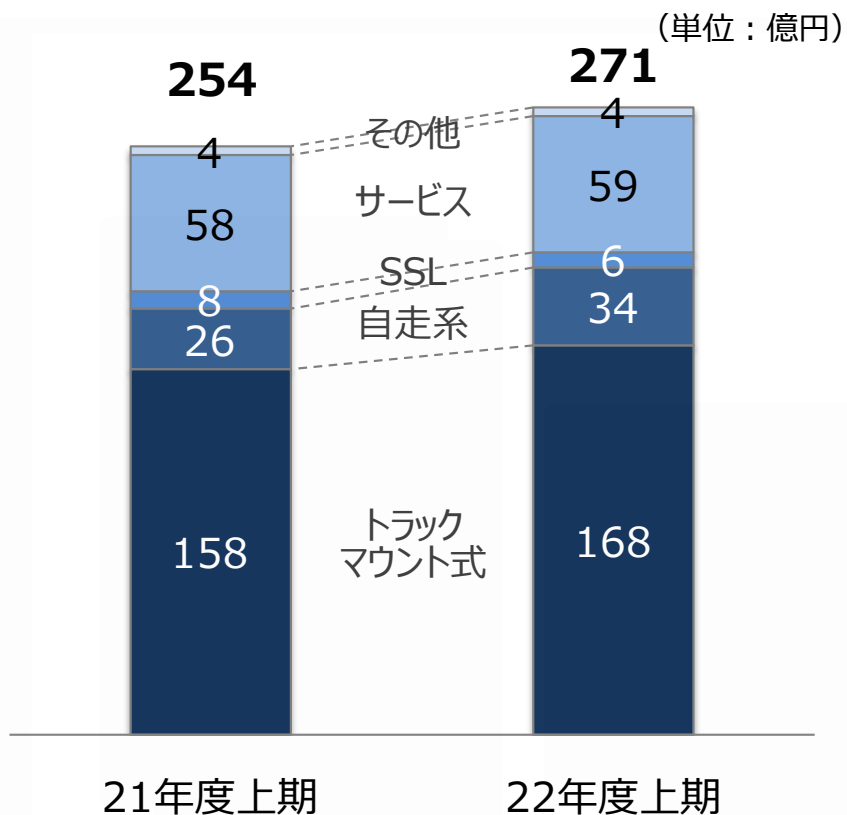
22年度第2四半期の業績②

(単位:億円)

	21年度上期		22年度上期		増減額	増減率
	金額	%	金額	%		
売上高	253.6		270.9		17.3	6.8%
営業利益	26.0	10.3%	24.5	9.0%	△ 1.5	△ 5.7%
経常利益	30.6	12.1%	29.1	10.7%	△ 1.5	△ 4.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21.9	8.6%	20.7	7.6%	△ 1.2	△ 5.4%
1株当たり配当金	中間	14円	中間	17円		
為替レート (USD)		110円		135円		
設備投資額		2億円		3億円		
減価償却費		8億円		8億円		

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

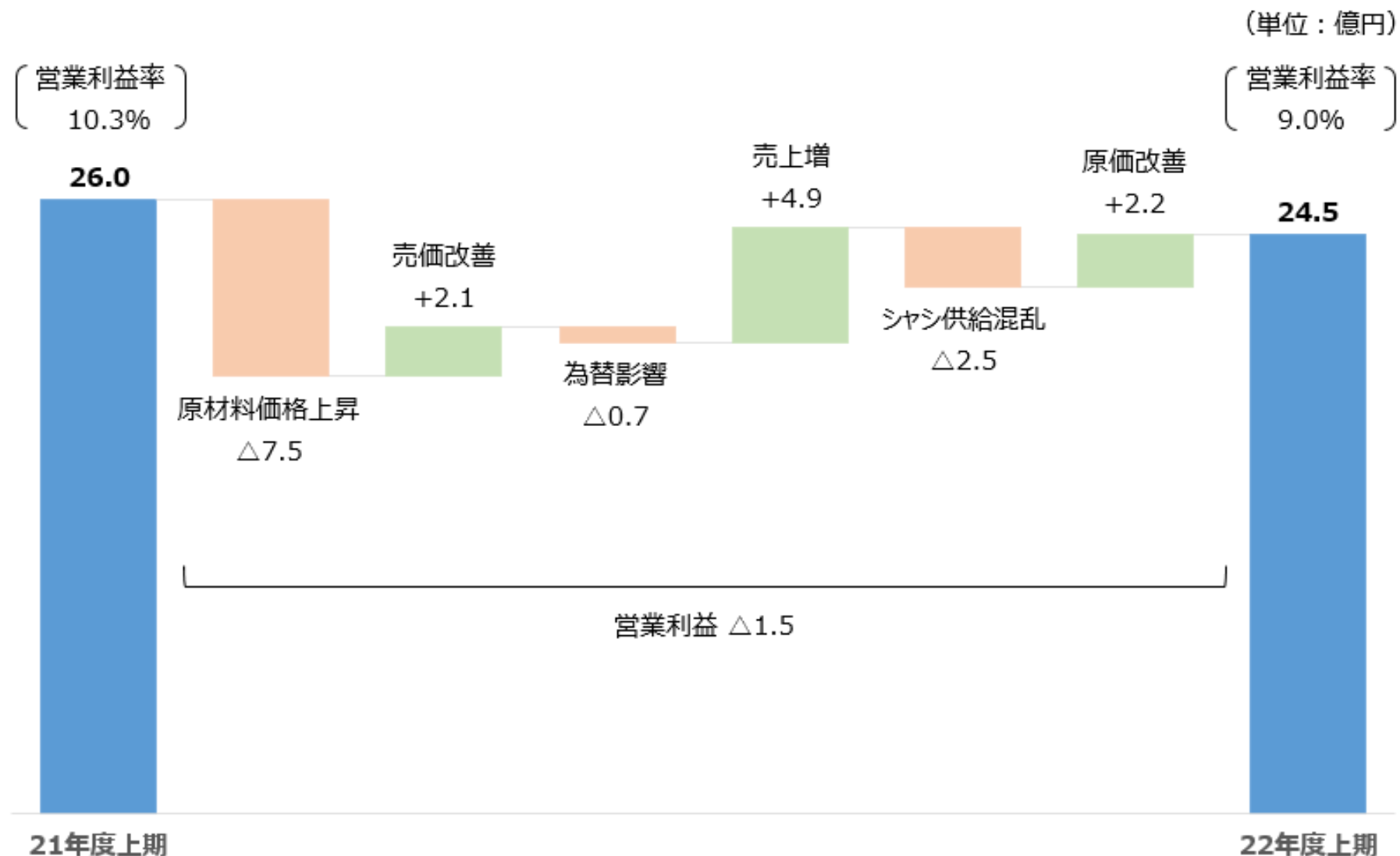
セグメント別売上高



(単位:億円)

	21年度上期	22年度上期	増減額
(国内シェア)	(68.1%)	(66.3%)	(△ 1.8%)
トラックマウント式	158	168	10
うち海外	5	11	6
(国内シェア)	(19.3%)	(17.1%)	(△2.2%)
自走系	26	34	9
うち海外	12	10	△ 2
SSL	8	6	△ 3
サービス	58	59	1
うち海外	7	4	△ 3
その他	4	4	△ 0
合計	254	271	17
うち海外	24	25	1

連結営業利益の増減要因



貸借対照表

(単位:億円)

		21年度末		22年度上期末		増減額
		残高	比率	残高	比率	
資産の部	流動資産	611	67.5%	619	67.9%	8
	固定資産	294	32.5%	292	32.1%	△ 2
	合計	905	100%	912	100%	7
負債・純資産の部	流動負債	124	13.7%	126	13.8%	2
	固定負債	21	2.3%	22	2.4%	1
	負債 合計	145	16.0%	148	16.2%	3
	純資産 合計	760	84.0%	764	83.8%	4
	うち自己株式	△ 6.4	—	△ 9.7	—	△ 3
	合計	905	100%	912	100%	7

- I. 会社概要
- II. 22年度第2四半期の業績
- III. 22年度の業績見通し**
- IV. 配当
- V. 中期経営計画

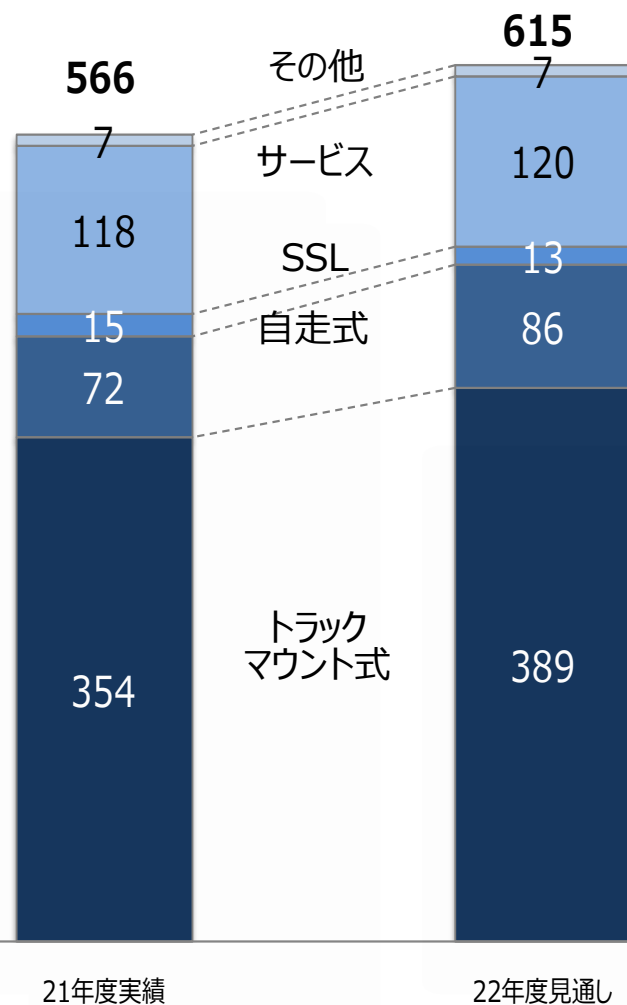
22年度の業績見通し

(単位:億円)

	21年度実績		22年度見通し		増減額	増減率
	金額	%	金額	%		
売上高	565.9		615.0		49.1	8.7%
営業利益	68.6	12.1%	76.0	12.4%	7.4	10.8%
経常利益	77.3	13.7%	81.0	13.2%	3.7	4.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	56.4	10.0%	57.0	9.3%	0.6	1.1%
1株当たり配当金	中間	14円	中間	17円		
	期末	20円	期末(予想)	17円		
	年間	34円	年間(予想)	34円		
為替レート (USD)		113円		135円		
設備投資額		6億円		20億円		
減価償却費		16億円		17億円		

セグメント別売上高

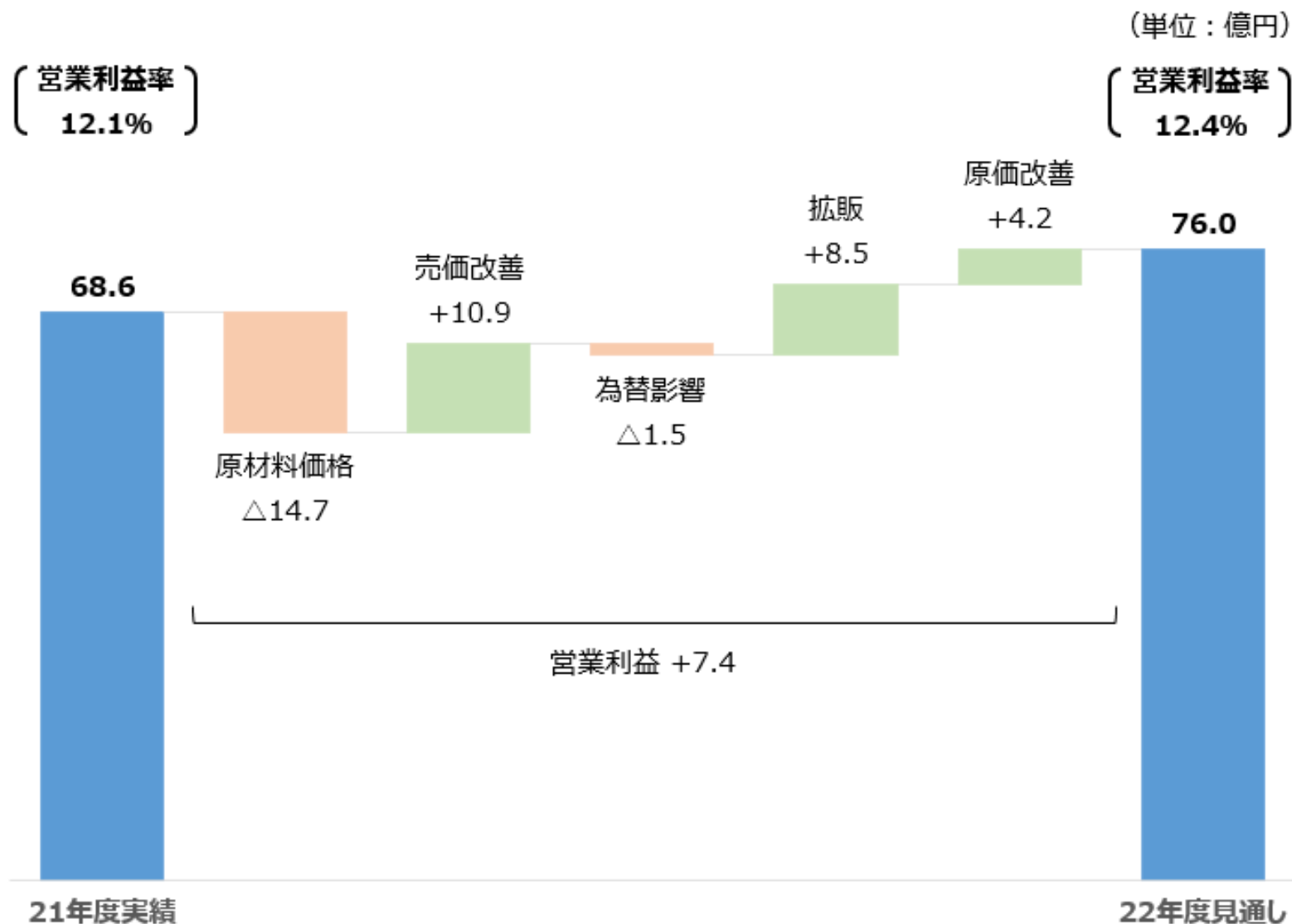
(単位：億円)



(単位:億円)

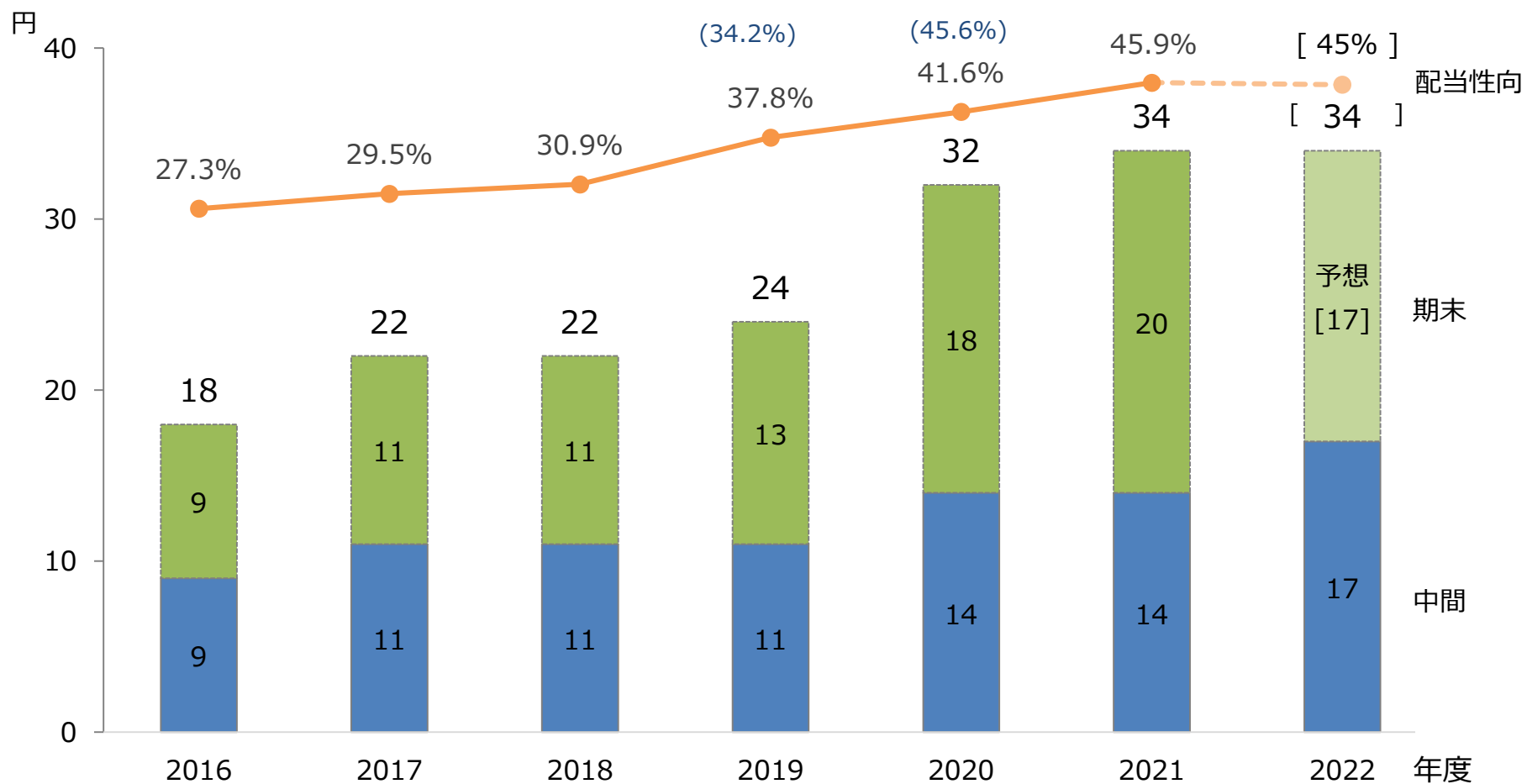
	21年度実績		22年度見通し		増減額
	金額		金額		
トラックマウント式	354	62.5%	389	63.3%	35
うち海外	12	2.1%	17	2.7%	5
自走式	72	12.6%	86	14.0%	14
うち海外	24	4.2%	25	4.1%	1
SSL	15	2.7%	13	2.1%	△ 2
サービス	118	20.8%	120	19.5%	2
うち海外	10	1.8%	11	1.8%	1
その他	7	1.3%	7	1.1%	0
合計	566	100%	615	100%	49
うち海外	46	8.1%	53	8.5%	7

連結営業利益の増減要因



- I. 会社概要
- II. 22年度第2四半期の業績
- III. 22年度の業績見通し
- IV. 配当**
- V. 中期経営計画

1株当たり配当金と配当性向



() : 2019年度に発生した仕入先被災により2020年度に受領した
 保険金収入(特別利益)を2019年度に計上した場合の想定配当性向

基本的な考え方：株主重視の観点から安定的な配当を行う

- I. 会社概要
- II. 22年度第2四半期の業績
- III. 22年度の業績見通し
- IV. 配当
- V. 中期経営計画**

1. 中期事業計画

1) 達成のための取り組み

社会・お客さまにとって
「なくてはならない企業」へ

- 社会貢献を中核に据えた経営
 - ・災害復旧時のお客さま支援の仕組みづくり
 - ・カーボンニュートラル社会を実現する開発・生産
- ダントツの信頼を獲得する絶対的プレゼンスの確立
 - ・商品のライフサイクルを通したお客さま満足度の向上

事業拡大と収益構造改革

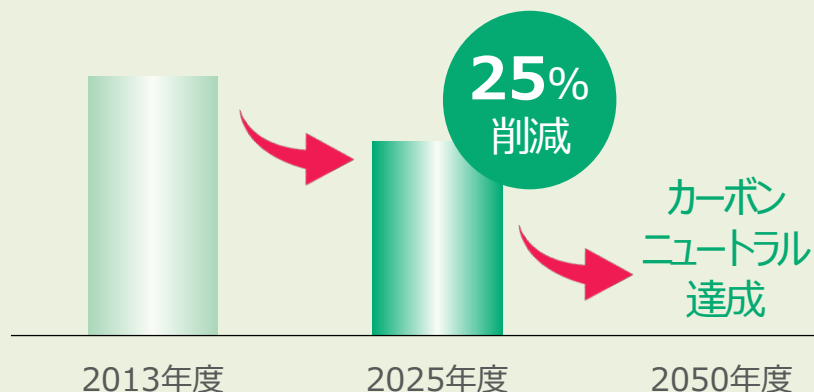
- 成長市場・分野への積極投資
 - ・成長する中国市場での事業再編・投資
 - ・サービス事業への積極投資によるお客さま満足度向上
 - ・関連事業の取り込みによる事業拡大
 - ・新機能搭載、商品ラインナップ拡充
- サプライチェーンの再構築
 - ・仕入先と一体となった活動によるQCDの競争力強化

中期的成長を支える
経営基盤の強化

- 腕、知恵、心を継続的に高める人材育成の仕組みづくりと効果的運用
- 更なる安全意識高揚をめざした安全文化の構築

2) 環境・社会貢献の取り組み

【生産活動を通じたCO2削減の取り組み】



第7次環境プランの目標達成に向け取り組み中。
主力工場である新治事業所においては、太陽光システムを増設（2022年4月）。
また、「電源群馬水カプラン」を活用し、グリーン電力の積極的な導入を実施。

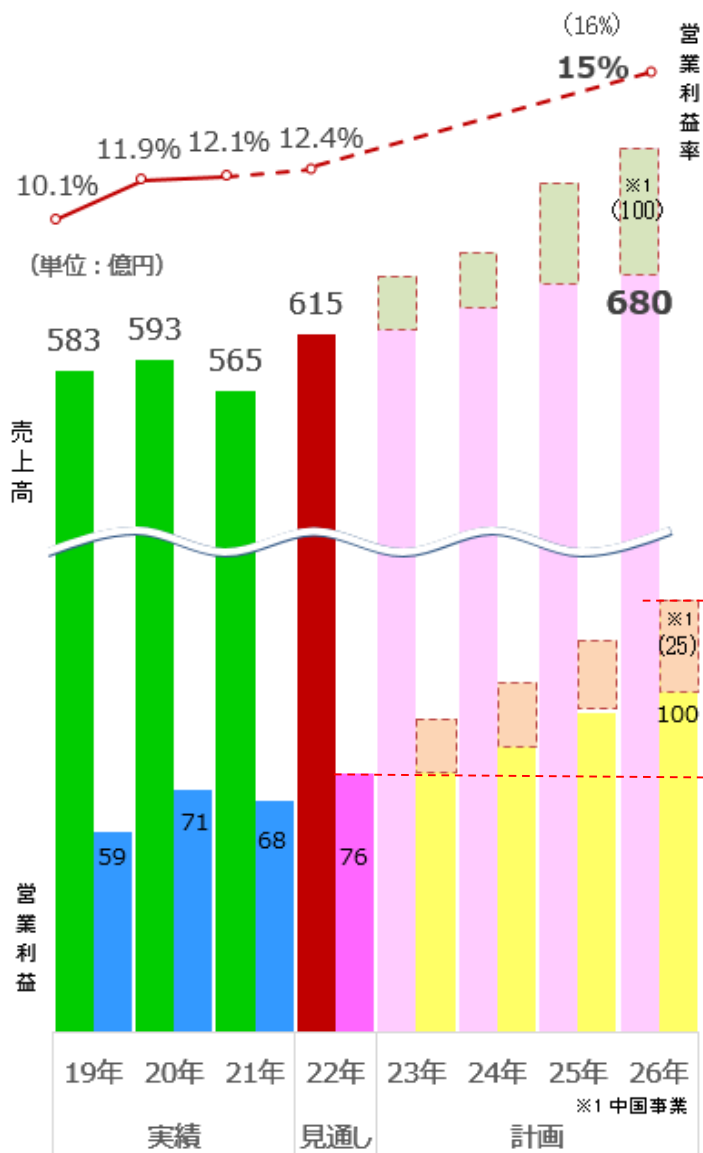
【社会貢献活動】

様々な地域社会貢献活動に取り組み中

- 小学生を対象とした社会科見学の受け入れ
- 群馬県「企業参加の森林づくり」に参加 など



3) 売上利益計画



【収益拡大の主な施策】

(単位：億円)

施策	投資計画	想定利益 (年額)
● 中国事業 2拠点の再編とトラックマウント式の生産能力増強	35	10
● サービス事業 車検・重整備・塗装等の取込み、レンタル事業者の点検整備受託	40	8
● カスタマイズ強化 作業サポート車両 ^{※2} (支店調達品)等の標準化・内製化	5	1
● 内製化 機能部品の内製化による付加価値取込み、リードタイム短縮	20	5
● 生産性向上・生産能力増強 生産能力と柔軟性を両立した最適生産体制の構築(新生産拠点を検討)	65	15

※2 資機材運搬車両等

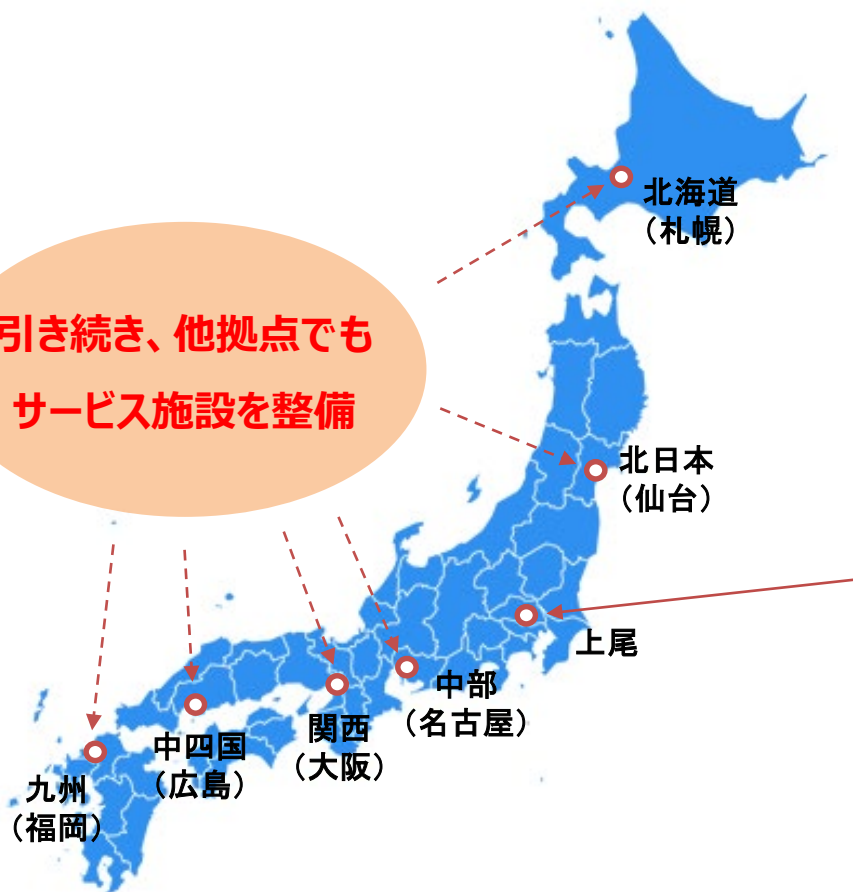
4) 中期事業計画の取り組み事例①

収益拡大のテーマの一つである「サービス事業拡大」のスタートとして、本社に隣接する上尾CSC（カスタマーサービスセンター）内でサービス工場の新築工事に着工。
投資額：6億円、2023年6月稼働予定。

サービス事業拡大のねらい

- ワンストップサービス提供・サービスリードタイム短縮によるお客さま満足度向上
- 修理、車検・重整備の取り込み
- レンタル事業者等、自社整備を行っているお客さまの点検・整備、再塗装などの受託

引き続き、他拠点でも
サービス施設を整備



工事の様子



完成イメージ（上尾事業所）

4) 中期事業計画の取り組み事例②：新事業展開に向けた製品

(1) 移動式電源車 & リチウムバッテリーの応用

高所作業車のバッテリーを可搬式とし、被災地への給電を想定。
急速充電装置を備えた、燃料（プロパン/ディーゼル）の異なるエンジン式発電機を搭載した
新しいコンセプトの移動式発電機車。

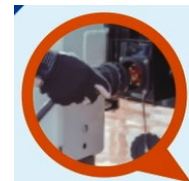
**DUAL SOURCEによる
安心発電**
～現場での燃料調達性～

DIESEL エンジン LPG エンジン

軽油 LP



モバイルバッテリー搭載



活用例

仮設事務所
照明器具
扇風機
など

給電

モバイルバッテリー
充電ステーション

急速充電機

急速充電

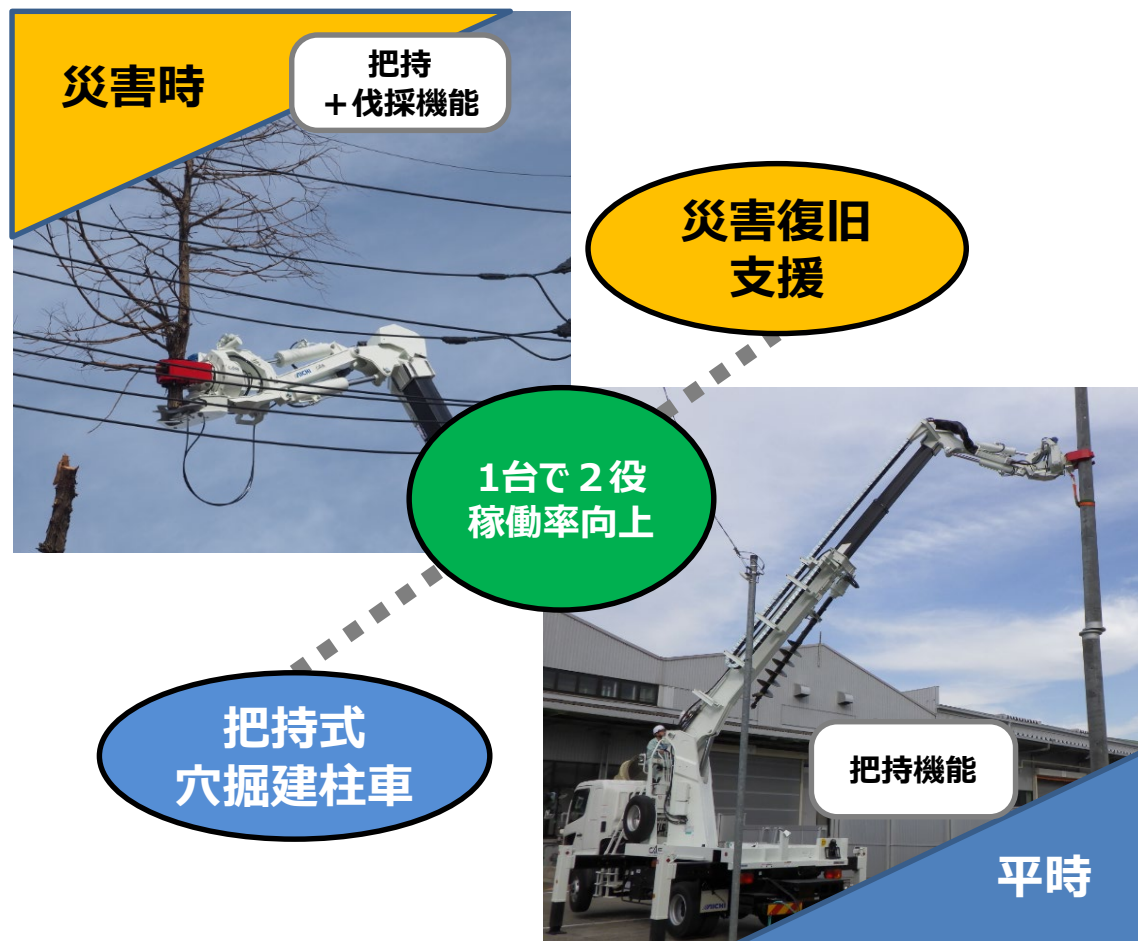
急速充電

EVへの
急速充電

4) 中期事業計画の取り組み事例③：新事業展開に向けた製品

(2) 倒木伐採車

従来の穴掘建柱車をベースとすることで、平時は穴掘建柱車、災害復旧時はアタッチメントの装着により倒木伐採作業に活用可能。



(3) EV高所作業車

電気自動車に架装した狭隘地向け高所作業車。関連業界の展示会でご意見を伺い、商品化に向けて実証検証を計画中。

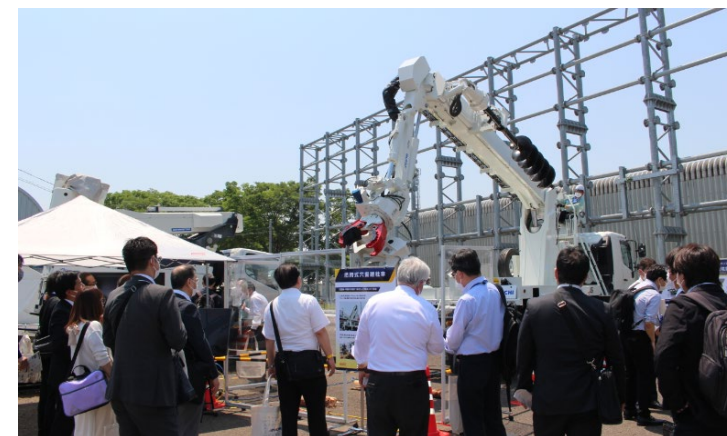


その他機種のEV化に向け
トラックシャシメーカーと連携し
開発実施中

5) 展示会への出展

(1) つくばフォーラム：5月18～19日

茨城県つくば市のNTTアクセスサービスシステム研究所で開催された「つくばフォーラム2022」（主催：日本電信電話株式会社様）に出展。



(2) 電設工業展：6月1～3日

東京都江東区のビッグサイトで行われた、「第70回電設工業展」（主催：一般社団法人日本電設工業協会）に出展。



各種展示会にてお客さまからのご意見を頂き、移動式電源車、倒木伐採車、EV高所作業車、といった開発中の製品の作り込みを進めております。

この配布資料に記述されている、弊社の予想、見通しは、現在入手可能な情報から得られた弊社の経営者の判断に基づいています。

従って、この業績予想に全面的に依拠することはお控え頂きたく、お願い申し上げます。

また、これらの数字に関しては、様々なリスクや不確実性により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

ここでのリスクや不確実性とは、弊社を取り巻く経済情勢、お客さま環境、競合環境、関連法律・法規、為替レートの変動などが含まれます。

ただし、業績に与え得る要因はこれに限定されるものではありません。

以上